

平成24年度第1回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成24年5月31日（木） 午後1時30分～2時50分
- 2 場 所：郷土博物館講座室
- 3 出席者：（委員）吉田会長、野村副会長、白井委員、本郷委員、今井委員
（千葉市史編集委員会代表）三浦茂一委員長
（事務局）
原生涯学習部長、横田文化財保護室長、湯浅郷土博物館長、加藤副館長、
芦田主査、麻生、大関（囑託）、岩田（囑託）

4 議 題

- （1）平成24年度事業予定（案）について
- （2）今後の事業予定（案）について
- （3）その他

5 議事の概要

（1）平成24年度事業予定（案）について

平成24年度に予定されている事業について、史料調査・収集・整理事業（『史料編 近現代』関係調査を含む）、市史等の刊行事業（『千葉いまむかし』26号・ニューズレター）、編さん普及事業（千葉市史研究講座・古文書講座）、市史研究事業（市史研究会など）、市史協力員（ボランティア）の活動、その他の項目について説明し、承認された。

（2）今後の事業予定（案）について

今後の刊行物である『千葉市史 史料編 近現代』、『千葉市史料』（仮称）、『歴史読本』（仮称）、について説明、承認された。

（3）その他

6 会議経過

【開会】

午後1時30分、委員5名中5名着席。

司会（加藤副館長）より、資料確認。続いて湯浅館長より職員の紹介。その後司会より設置条例第5条第2項の規定により、この会議の成立が告げられ開会。

原生涯学習部長の挨拶、吉田会長の挨拶に続いて、会長が議長となり議事に入った。

吉田会長：今回議案の送付がなかった。次回は忘れずをお願いしたい。ある人から「千葉市史編さん会議の議事録はおもしろい」と言われた。「おもしろい」はいいことだが、公開前にチェックはできるが人名とかもう少し気をつける必要があると思った。

議題1 平成24年度事業予定（案）について

平成24年度に予定されている事業について芦田主査が説明。

【質疑応答】

吉田会長：議題1の1史料調査・収集・整理についてご意見は。

野村委員：⑤中嶋家旧蔵文書と⑦市川比佐雄家文書は、千葉市と関係ないので返却なのか。

私の祖父が福井県の出身。祖父の時こちらに出てきた。福井から問い合わせがあり、史料はないと答えた。史料の収集にはどこも苦労している。⑤⑦の史料が地元にも多少なりとも参考になるなら、荊沢や大網白里町へ連絡・調整をしないのか。

事務局（芦田）：市（町・村）史編さんを行っているところであれば、史料の情報を教えている。この二つの史料は、千葉市に関係がなく、また、所蔵者が処分するという恐れがないためお返しする。

野村委員：捨てられたらもったいない。

事務局（芦田）：データは市で残し、また、目録も作成済みである。

吉田委員：作草部の高山家文書にある大黒屋・平野商店とはどういうお宅なのか。

事務局（芦田）：文書に名称は出てくるが、店の実態・内容は分からない。

吉田委員：原部長の挨拶にもあったが、史料の調査・収集・整理を細々ではあるが着実に進めている。これらは非常に重要な分野であると再認識している。前回の報告から整理内容が入れ替わっているが、蓄積と活用を同時に問われていると思う。今のところ全体的な戦略が見えない。

野村委員：③の故小池さんは昔から収集で有名だった。整理は終わったのか。どこに保存するのか。利用は可能なのか。

事務局（芦田）：保管は郷土博物館で行う。寄託あるいは寄贈の手続きを完了させてから一般利用に供する。写真は個人の物も多いが、小池さんが市の広報課などから個人で収集した物もある。

野村委員：システムの利用できるとよい。

吉田委員：博物館は写真・画像などを体系的にコレクションしているのか。絵葉書を含めて。

事務局（芦田）：体系的とはいえないが、家別に整理し目録化している。画像はPCへ取り込んでいる。一般利用申請（掲載・借用）は多い。但し、寄託の場合所蔵者の許可が必要で自由に使える訳ではない。

吉田委員：『史料編 近現代』関係調査で三浦先生からありませんか。

三浦委員：新聞の抽出は大変だと思う。但しこれがあると随分助かる。今回『千葉いまむかし』25号に執筆したが、執筆にも「総房共立新聞」から関連史料を見つけるのも、事務局が作ったデータが非常に役立ち、そのおかげで原稿が完成したと言える。今後も是非続けてもらいたい。近現代史にとってニュースソースとして大事なものである。なお、中嶋家文書は仲介者に返却したのか。

事務局（芦田）：まだしていない。

三浦委員：中嶋家文書の「諸用留 六」「諸用留 七」は大網村の文書と思われるが、県史としてみると文書館でも明治7・8年頃の布達類は完全には揃っていない。欠年の布達があったと思う。千葉市には関係ないが目録だけで返却するのか。

事務局（芦田）：諸用留は写真撮影も行っている。

吉田委員：新聞の抽出は大変と思うが、どうやっているのか。

事務局（芦田）：市史には県史と同じように、新聞ごとに紙焼きプリントを製本したものがあつた。製本された冊子に千葉市に係る部分に付箋を貼ることが抽出で、それを新聞ごとにデータベースの中に入力する。かなり膨大な量がある。近現代の先生方から要望があり、最初は職員・非常勤職員が入力をしていたが、現在はボランティアに頼んでいる。入力が完了した部分の目録はプリントしてお渡しできる。

吉田委員：入力情報は近現代の委員の方々に共有されているのか。成果は渡しているのか。
事務局（芦田）：近現代の先生方から問い合わせが来た時に即応するために作成している。
吉田委員：索引・検索手段も入力時に情報を与えているのか。
事務局（芦田）：入力内容は、記事の内容・年月日・新聞名などである。内容からキーワードで自由に検索ができる。たとえば「寒川」で検索ができる。
野村委員：大変な労力だ。
吉田委員：それをボランティアにやらせているんですよ。
白井委員：ボランティアは平成21年度から7人いるのか。途中出入り、移動はあるのか。
事務局（芦田）：最初は集まらなかったが現在は7人で作業を行っている。
白井委員：大変な作業なのでもっと広く募集して、常に新しい人も補充していくと仕事はかどるのではないか。
事務局（芦田）：入力するPCの台数に限りがある。
吉田委員：かなり貴重なデータと思うが公開とかは。ボランティアは入力結果は分からないのか。
事務局（芦田）：自分で検索はできる。但しデータの持ち出しはできない。
吉田委員：世界どこからでも検索ができたらすごいと思う。

吉田会長：議題1の2市史等の刊行事業についてご意見は。

野村委員：新しいものはないようだ。
白井委員：前回の話の中で政令市移行20年ということで、それに関連した何かという話があったが今回それがない。
今井委員：今年が20年なのか。
事務局（原）：そうである。今年の4月1日で政令市移行20周年である。
吉田委員：市としては何かあるのか。
事務局（原）：記念行事はない。既存事業の冠事業がある程度である。もう一つは、総合政策局が政令市はどういうメリットがあったのかという検証を行う。10月18日は市民の日。これは千葉市の政令市移行が閣議で決まった日である。この日に市長と何市かの市長に来てもらって自治体のあり方のトーク会を実施する。
吉田委員：市の検証は市民を含めたものではなく、内部の研究なのか。
事務局（原）：市民は含めない。そもそも政令市について市民は良く分かっていない。どこが一般の市と違っているのか、移行前と移行後とではどこが変わったのかなどを検証していく。
吉田委員：それ自体、千葉市の現代史という気がする。

吉田委員：議題1の3編さん普及事業と、4市史研究事業について併せて議論したい。

吉田委員：市史研究講座、何年も前から毎回議論になった。いつ開催するのか。夏場を避けるなどがあった。一番重要なのはテーマと講演者の選定をどういうプロセスで決めるかである。ある程度改善されてきたと思うが、かなり事務局まかせという感じがしている。前回の議事録があれば分かるが、この名前は2月22日の編さん会議で紹介があったものである。テーマの「千葉市の歴史を学ぶ」は誰がどういうプロセスで決めるのか。
事務局（芦田）：講師の先生を決める段階で事務局で決める。

吉田委員：講師の先生を決める時に事務局まかせではなくて、こういう内容でやった方がいいんじゃないとか、こういうテーマでやるならこういう先生がいるという話を編さん会議にはかって、そこから情報を得るとか、そのプロセスが大事と言っている。ここ2～3年は改善されてきているが。どういうテーマ・特集で講座を実施するのか。今年度はこの形で10月に3回、6人の方、決まっていると思うが、来年・再来年のことを考えると研究講座の位置づけも含めて、講師・テーマの選定のプロセスを編さん会議で議論を得てほしい。

事務局（湯浅）：昨年度の講座は市制施行90周年記念ということで、それに伴ったテーマで実施した。今年度はより幅が広いテーマを考えた。テーマ・講師の選定は今後この会議で相談させていただきたい。

吉田委員：今更だが、「政令市移行20周年」というテーマもあり得た。

白井委員：今年の10月18日の市民の日からめて。

吉田委員：中級古文書講座、後藤先生が出来ないときはどうするのか。代替りの人は念頭にあるのか。いれば名前を教えてもらいたい。

事務局（芦田）：後藤先生に講師をお引き受けいただけると考えている。もし、どうしてもダメならば他の先生をお願いしたい。

事務局（湯浅）：後藤先生から年間スケジュールを具体的に聞いており、現在は日にちの指定ができないとのことである。万一どうしても講師をお引き受けいただけない時は、また相談させていただきたい。

吉田委員：中世文書の講座はどうか。

本郷委員：千葉市に関係するものだけというのは難しい。

吉田委員：房総位では。

本郷委員：房総までいくと、戦国文書になってしまう。初級古文書講座は6月1日号で募集して6月23日から始まるが、募集・準備は大丈夫なのか。

事務局（芦田）：人気講座ですぐ定員に達する。

白井委員：市史研究講座は全部を一まとまりとして募集するのか、それとも個々に募集なのか。

事務局（芦田）：3回続けて、3回（日）受講できる人ということで募集する。

白井委員：それぞれ興味のある部分が違ったりすると、最初で一杯になって受講したかった人が抽選に漏れたりとか起こるのでは。できれば一人でも多くの人に講座を受講してもらえるとよい。

事務局（湯浅）：市民会館小ホールは定員200名であり、例年定員まで応募が達しない状態である。一人でも多くの方が受講できるように配慮して実施したい。

吉田委員：人気があるなら通年・拡大してやればよい。

吉田委員：4市史研究事業と5市史協力員の活動はどうか。

吉田委員：「江戸と千葉研究会」は累計で何回目か。

事務局（大関）：15回位です。

吉田委員：この研究会も今年で20回近く実施することになる。千葉県史でネットワークを作った方々も徐々に参加されてきて、当初から比べると質・量ともに成長したと思う。前から言っているが、オーラル（聞き取り）を研究会形式でやってみたい。誰に聞くのか。千葉市民、編さん委員会の委員の先生方、野村委員、三浦委員を話し手にして、野

村委員は先ほどのご祖父の話でもお願いしたい。1回2時間位。聞き取るのは2～3人。

参加は自由。とりあえず1～2回できないか考えている。

事務局（湯浅）：日程とか詰めて、この館で実施は可能と思う。

吉田委員：野村委員1回どうですか。

野村委員：いやいや。堪忍してください。

吉田委員：7～8月に出来ないか考えている。

事務局（湯浅）：吉田委員さんと調整をとらせていただいてよろしいか。

吉田委員：いきなり言い出したので、私がきちんと詰める。

事務局（湯浅）：対応できるようにしたい。

吉田委員：市史研究会の具体的な案はあるのか。

事務局（芦田）：未定である。

野村委員：基本的な質問だが、郷土博物館で市史編さん担当の職員は何名か。

事務局（湯浅）：担当は麻生1名。まとめとして芦田主査。館長・副館長も関わっている。

他に嘱託職員が2名、非常勤職員が1名いる。

野村委員：これだけ事業を実施すると結構大変だ。

吉田委員：大変ですよ。

野村委員：これだけあると準備とか結構大変だ。

吉田委員：一つのネックはお金だ。厳しい現実を改めて認識した。

議題2 今後の事業予定（案）について

今後の刊行予定について芦田主査が説明。

【質疑応答】

野村委員：委員になってからずっとブックレットの予算を要望し続けてきた。予算の計上はあるのか。来年度の予算要求は8月頃からと思われるが、是非ブックレットの予算要求をしてもらいたい。どんなに提言しても予算の壁があるので進まないと思うが。

吉田委員：前回の会議で私が自費出版も含めて今年度中の刊行プランをラフに提案して了解していただいたと思うが、今回事務局のメンバーも変わっているが2月22日の議事録を確認してもらいたい。野村委員のご紹介で流山方面の某出版社に現在打診中である。1週間経ったが返事がない。『千葉いまむかし』に主に大関さん、それに長坂さんが執筆した「紙上古文書講座」10本程を、私も書いて全部で18本と考えて8月末原稿締め切りで揃えたい。もし出版社が見つからない場合は、安っぽいものになるが、自費出版でも構わないので、とにかく作ろうと考えている。ご協力をお願いしたい。

もし発行できた時は、市史の活動の基礎になった刊行物なので市民の方むけの読本ということもあるので、生涯学習振興課も含めて教育委員会で多数購入してもらいたい。市で購入は可能なのか。まずい点、こうすべき点があれば教えてほしい。

野村委員：市としては購入してくれそうなところを紹介することしかできないと思うが。

事務局（湯浅）：購入希望者へ本を紹介することは可能である。

今井委員：『千葉市史 史料編 近現代』などの刊行が止まっているが、どんな形でどのように要望すれば予算が計上されるのか。方策はないのか。史料収集・整理が続いているのは非常にありがたく安心できる。けれども成果物がまったく見えないと悪循環に陥ってしまう。『千葉いまむかし』『ニューズレター』は出ているが、本来の刊行物が何時になるのか。何とか『千葉市史 史料編 近現代』を一冊出したい。どうしたら刊行でき

るのか。どの位の規模の物になるのか分かれば、編集委員も事務局も動けるのではないかと思う。

野村委員：市史編さん会議の提案、教育委員会に通じているのか。

事務局（湯浅）：市史編さん会議のご意見・ご提案は、事務局からきちんと伝えている。市史の予算も、博物館として大事なものと認識しているので要望を考えているが、教育委員会・市の中で優先順位が出てくるので、その中で予算がつかなかった。今後、基本的には今の予算要望の仕方では厳しいと考えている。しかし、何とか確保するよう努力したい。それは、これだけ努力しているので計上してもらいたい、といったものも必要である。また、市政100周年には大きな目玉として特別に配慮してもらおうとか、予算計上に向けた地道な活動が必要である。市史編さんは市として基本的な事業と認識されおり、現状を維持しながら継続的に事業を実施し予算要望を行えば将来につながると思う。

今井委員：市政100周年に『千葉市史 史料編 近現代』が1冊できるのか。やっとそこで1冊というのが気になる。今までは『千葉市図誌』などを記念事業で出せたが、史料編が記念事業では少々寂しい。今後通るかどうかは別として、市民の立場で要望を出したい。バックアップしないと予算が付かない。空しい。何か別の方法を考えていきたい。

本郷委員：近現代の編集委員会があるにも関わらず、何時どういう形で出すのか全然分かっていない。ちょっと問題だと思う。

吉田委員：凍結して何年経つのか。スタッフも忘れてしまう。せっかく築き上げた人的資産がもったいない。先ほど事務局が言った色々な工夫、我々はアイデアは出すが金がない。毎回空回りするだけ。前に進める何かがないと、細々と事業を維持していれば良いという訳にはいかない。維持するエネルギーすら枯渇しているのが現状だ。編さん委員はボランティアで活動しているのが現状だ。

事務局（湯浅）：『千葉市史 史料編9近世』を平成16年8月に刊行以後滞っている。方策を練りながら、委員さんの意見も色々な所に伝えながら前向きな方向で事業を進めたい。

野村委員：同じ議論を繰り返している。委員は張り切っているので市に宜しく願いたい。

議題3 その他

【質疑応答】

なし。

吉田委員：今回は以上で終了したい。

加藤副館長の進行で、平成24年度第1回千葉市史編さん会議を終了する。

問合せ先

千葉市立郷土博物館 市史編さん担当

TEL 043-222-8231